

令和7年度研究推進計画

学 校 名東広島市立高屋東小学校

校長名 岩見 文彦

研究主題

分かった！できた！と感じる授業の創造
 ―算数科を中心とした「高屋東小授業デザイン」の研究と実践を通して―

1 研究主題について

(1) 研究主題の理由

本校の児童は、令和5年度までの取組によって「問いをもつ」「見通しをもつ」過程で解決方法（解法の見通し、方法の見通し、結果の見通し）を考えさせることで児童の学習に向かう姿勢が改善され、粘り強く問題解決に取り組む児童が増え、学力も向上した。

しかし図1に示すように、授業において自分の考えを伝えていないと考えている児童が多いという課題が残ったため、令和6年度は、筋道を立てて考え表現させる指導の工夫をすることで、児童一人一人が自分の考えを伝えたり発表したりしていると感じることができるだろうと考え、研究主題を設定し授業改善を行った。その結果、児童に行ったアンケートの「自分の考えを話したり、書いたりしている。」という質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合が令和5年度12月の時点では71%であったが、今年度の10月には、83%になっており、昨年度より12ポイント上がった。

また、教職員に対する聞き取りから、45分の授業の中で算数科における一連の学習活動をやりきることができないという課題が明らかになった。そこで今年度は、課題のつかませ方や発問の内容など、今までの45分間の授業を見直し、すべての教職員が児童に「分かった！できた！」と感じさせることのできる「高屋東小授業デザイン」の創造を目指す。

(2) 研究仮説

課題の設定や見通しのもたせ方など、45分間の授業構成を改善した「高屋東小授業デザイン」に沿った授業を行えば、児童が「分かった！できた！」と感じることができるであろう。

自分の考えを話したり、書いたりしている。

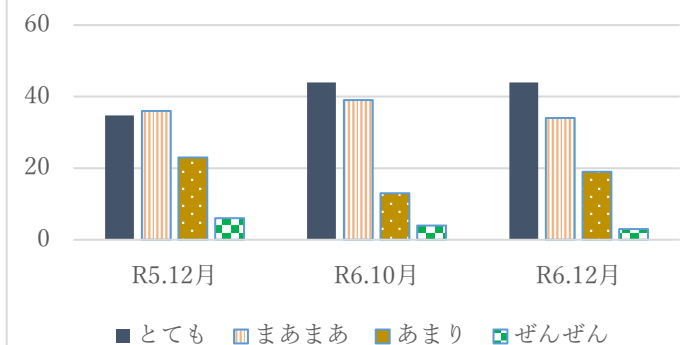


図1 児童アンケートの結果

2 研究内容について

①「高屋東小授業デザイン」の研究

ア 45 分間の授業の見直し、改善

- ・日々の授業についての振り返り、改善点の検証
- ・レディネステストによる児童の実態把握
- ・児童の実態に応じた発問や板書等の工夫
- ・算数科における学習活動の流れの意識統一

イ 「選択」と「自己決定」を設定した授業改善

- ・授業の中に「環境」「内容」「集団」の視点で選択と自己決定の場を設定する

ウ 授業UDの視点に立ったICT活用

- ・「焦点化」「共有化」「視覚化」等、児童の実態に沿った活用法の研究

②全ての児童が安心して学べる学級づくり

日々の学級経営や授業づくりなど、どんなことでも相談し合える「お悩み何でも交流会」の計画的な実施

3 検証について

検証の指標

検証の視点	方法	検証の指標と目標
児童は「分かった！できた！」と感じているか。	児童アンケート	肯定的回答の割合 80%以上 肯定的評価の向上
	振り返りの見取り	本校が設定した指標（4段階評価） 学級平均値 2.5 以上
	教職員アンケート	肯定的回答の割合 80%以上

4 校内研修計画

別紙参照

5 研修方法

- 日々の取組での成果や課題をもとに、児童の実態把握を的確に行うとともに、目指す子供の姿とのギャップをうめるために振り返りを行い、指導方法の工夫や改善の計画を練る。
- 児童の変容を見取るために、児童の振り返り等を成果物として蓄積していく。
- 授業研究では、討議の柱を明確にした議論をしたり、外部講師等からの指導助言を得たりすることで、成果と課題を明らかにし、研修だより等を通して、全教職員の学びにつなげる。